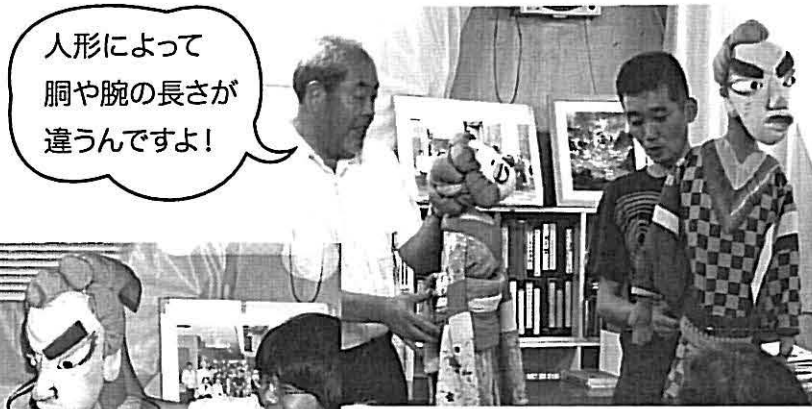


上演時間

『カチカチ山』……35分  
休憩 ……………15分  
『金壺親父恋達引』…55分

合計 1時間45分



人形によって  
胴や腕の長さが  
違うんですよ!



人形は首を持って  
動かすから重いんです。  
腕が痛い~~~~!!

人形でしか  
表現できないものがある…

たものであり、想像のものです。しかし「想像のもの」であるからこそ、人形の感情が「見えてくる」のだと長谷さんは言います。だからプークの人形は「人間の動きの真似をしない!」ことが基本。人形ならではの動きを表現し、観ている人の想像力を引き出していくことに重点を置いています。「想像力」をよりかきたてるためには人形の表情もぼんやりとしたものが良いとの事。これにより人形の演技や感情を想像するのです。

さて、今回人形たちが演じる物語は、言葉の傀儡師・井上ひさしが文楽台本として書いた『金壺親父恋達引』と、生誕百年で人気再燃・太宰治の「お伽草紙」から『カチカチ山』の二作品。人形たちが織り成す、風刺と笑いに満ちた「想像の世界」で遊んでみませんか? 新しい発見があると思います。皆で楽しみましょう。

↑1面からの続き↓

# 名演ニュース 8月号

編集・発行 / 名古屋演劇鑑賞会

☎(052)932-3739 FAX(052)932-3749

## 9月例会特集

ほとんどの皆さん はじめまして

# プークです!



長谷 詔夫 さん



お舟

7月21日、9月例会『金壺親父恋達引(かなつぽおやじこいのたてひき)』を公演する人形劇団プークの製作担当の長谷さんが、金壺親父の息子・万七とその恋人・お舟の人形とともに名演にやってきました。

名演の会員の熱い視線が人形に集まる中、若い二人の人形は恥ずかしそうに長谷さんの後ろの机の上に寄り添っています。

人形を後ろに侍らせながら長谷さんは、「人形劇は昔、私たちの生活の中に根づいていた。この地方はそういった文化の宝庫でもあり、特に名古屋とプークはご縁が深かった。」と話されました。

また人と人形との関わりについて、古くは埴輪にはじまり、平安期には陰陽師・阿部清明が祈祷に人型を使ったこと。時代によって形は違うものの、人形とは信仰・宗教、収穫・農耕の面で厄災を祓うものとして浸透していたこと、そして今もなお私たちの身の回りに人形があふれていることを語られました。

さらに人形浄瑠璃の話などからなぜ文楽が廃れていったのかという話になり、その理由は意外にも「人形の動きを、より人間の動きに近づけようとしていったから」との事。人間は「生」のもの、現実的なものであるのに対し、人形は「イメージ」したものの、人間が作

↑4面に続き↓

### 名演9月例会 人形劇団プーク 公演

太宰治『お伽草紙』より

## カチカチ山

脚色・演出/岡本和彦

モリエール『守銭奴』より

## 金壺親父恋達引

かなつぽおやじこいのたてひき

作/井上ひさし・演出/井上幸子

9月17日(木)7時

18日(金)2時・7時

19日(土)2時

アートピアホール

(名古屋市青少年文化センター)

申し込み〆切日 8月20日(木)

★申し込み〆切日に遅れると席が悪くなります。

★できるだけ第2希望まで出して下さい。

★申し込みの取り消しは、8月20日(木)以降はできません。

★申し込みの変更は、席がある限り受け付けます。